

故郷の味と

想い出ばなしを堪能

—第二十二回東京旭川会総会・懇親会—

東京旭川会の第二十二回総会・懇親会が平成十年十月十六日午後六時半より、東京・新宿の京王プラザホテル「錦の間」で開催された。

当日、幹事たちは午後四時に集合準備に当った。まず、お土産の袋詰め。旭川ブランドの新米「大雪山見」で育った「旭川生ラーメン」、絵葉書、喜多方ラーメン、日本エアシステムからのCD-ROM、その他パンフレットなど流れ作業で袋に詰める。会場の外には稚内市佐賀商店の海産物即売コーナーが設置され、利尻・礼文のうに、昆布、干し小女子、いくら、筋子、鱒子、鮭、鱒の粕漬けなどが並んだ。

会場の設営も時間が限られており大わらわ。ステージ左手は物産コーナーで、大好評の旭川ラーメン(調理、給仕には係の奥様も動員された)、かぼちゃ、馬鈴薯のふかしたものの、ワイン、日本酒などが盛りだく



第20号 平成10年(1998)12月22日発行
発行所 東京旭川会 〒163-1310
東京都新宿区西新宿6-5-1
新宿アイランドタワー10F
東京美装興業株式会社内
TEL. (03) 5322-2725
FAX. (03) 5322-2710
編集 東京旭川会広報委員会

総会

さん。壁面には旭川市の四季、旭川冬まつり、航空三社のポスターなどが貼られた。なかでも秋灯が石狩川に流れている旭橋の夜景が郷愁をそそった。

六時を過ぎる頃になるとお客さまが見え、再会を喜び合う姿があらわにみられた。

予定通り六時半開会。尾崎靖亮幹事が「おぼんでございます。年一回郷土を同じくする皆さんの集いの場お話を花を咲かせていただき、楽しいひと時を」と開会の挨拶をし、引きついで司会を務めた。

議長は会則により東京旭川会・八木祐四郎会長が選ばれ、議案審議に

入った。議案に入る前に、この一年間の物故者が読みあげられ、副会長として永い間、会にご尽力いただいた故・矢野正康氏はじめ七人の方々のご冥福を祈り、黙禱を捧げた。

○第一号議案

桑本平八事務局長から報告され、「年会費については七五%の収入を目標にしているが、昨年は六二%にとどまって、支出とのバランスが取れなくなり、七十万円の借入れが出ってしまった」と説明。次いで植木



総会、続いて懇親パーティへ、会場は熱気にあふれる

○第二号議案

平成十年度事業計画(案)について第二十二回総会・懇親会

(1) 本日の出席者予定は百四十五人、当日受け付けでこれを上回るかも知れない。

第十二回「郷土訪問の旅」

(2) 会員からの要望もあり、期日は未定だが、来年の五月か六月に実施すべく準備中。具体化して早急に連絡するが、一人でも多くの参加を期

待している。

(3) 会報『ななかまど』の発行は、新しい方に編集をおねがいしている。遅くとも年内に発行したい。

(4) 旭川会のようなふるさと会が東京に100余りあり、その連絡会の行事に桑本事務局長はじめ担当幹事が出席している。今年も同様に参加の予定。平成十年度予算(案)について繰越金は、七十万円の借入れを差し引くと、九万四千四百三十三円と少なくなっているが、何とかクリアしたい、と述べた。

の第一号・第二号議案に



旭川市助役一氏、旭川市議会副議長星弘氏、旭川商工会議所専務理事柳谷宏氏

「この東京旭川会で多くの方々元気にお会いできて感謝の気持ちでいっぱいです。菅原旭川市長は十一月の市長選挙のため、今回は則末助役が市長代理としておいで下さいました。今年は経済的な問題で世の中が騒然とし、大変な時ですが、そうした中でも私がかかわった長野オリンピックには多大なご支援をいただき、成功裡に終了することができました。さらに旭川でスノーボードのワールドカップをやらないかという話が来ており、一九九九年二月に旭川と苗場で開催することが決まりました。現在、旭川市に大変ご無理な予算編成をお願いしている次第です。皆さま方もぜひ競技に足を運ばれ、立派な大会をご覧いただき、大会を成功させてください、と存じます。

今夜は一年に一回の会、旧交を温めていただきたいと思います。ご支援をいただく皆さんに感謝致します」とコメント。

続いて旭川市長代理・則末誠一助役のご挨拶。

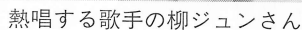
「菅原市長は市長就任以来、東京旭川会に皆勤でしたが、十一月一日告示、八日投票日の選挙戦を戦っている時です。

旭川も金融破綻の影響を受けており大変な時ですが、市に作家三浦綾子さんの記念文学館が出来て、そのロマンチックな雰囲気と三浦さんの人柄を慕って全国から見に来られています。旭川に新しい名所ができたことを旭川市民は誇りに思っており

懇親会

総会に引き続き行われ、司会はい東喜久子幹事に交代。六時四十二分ご来賓の入場着席。まず八木会長の挨拶で幕を開けた。

来年はワールドカップスノーボー



り返していた。

ジュンさんの歌『夢去りぬ』

街『ア・バ・ヨ』ほかがあった。柳さんは宮城県出身だが四年前から歌手として旭川で活動し、旭川市の観光大使にもなっている。

七時四十分よりお楽しみの抽選会。司会はお馴染みの武田陽子幹事

七時四十分よりお樂しみの抽選会
司会はもうお馴染みの武田陽子幹事
を盛り上げていた。やはり人気は航
空券。当たって歓声をあげる人、近

ミス旭川による抽選会風景

い番号に残念がる人。抽選会は無事終了した。八時四十分、旭川商工会議所・柳谷宏専務理事の音頭で、来年の元氣な再会を期し、三本締めで終宴となった。

（須藤智恵子記）

(須藤智恵子記)

旭川市関係

助役・則未誠・市議會副議長・星弘
商工會議所專務理事・柳谷宏・(旭
川觀光協會會長代行・稻村健藏・市
總務部職員監・福土英樹・同企画部
長・中屋利夫・同企画部秘書課渉外
係長・谷口和裕・商工部産業立地課
長・高田保・同課長補佐・伊藤克彦
同觀光課觀光係主査・國岡哲彌・同・
石原充浩・市議會庶務課長・秋月弘
志・ミス旭川・飛田亜希子

■在京関係

(株)北海道倶楽部調査役・山根昌武
 北海道ふるさと会連合会会長・曾我
 浩角、北海道新聞東京支社社長・
 田村泰章代、サッポロビール(株)営業
 推進部課長・人見哲夫、全日本空輸
 (株)国内販売推進部リーダー・稲岡研
 士、同主席・大澤浩司、(株)日本エア
 システム顧客開発部課長・入澤寛
 同・工藤憲彰、日本航空(株)国内旅客
 部課長・鈴木正美、北海道旅客鉄道
 (株)東京営業部副課長・寺澤重成、同
 主席・山田昭一、藤原製麺(株)東京支
 店長・高木哲司、ホクレン農業協同
 組合連合会東京支店長・古崎正、(株)
 十勝・佐藤茂子、(株)旭ダンケ東京営
 業所長・山本勝也、同所長代理・岡
 澤均

祝電

衆議院議員・金田英行、
関西旭川会

情報募集／

次号に「東京で頑張る旭川出身者の店」特集を検討中です。ご存知のお店がありましたら、手紙かFAXで事務局まで。

総会参加者

(敬称略・順不同)

総会参加者（敬称略・順不同）

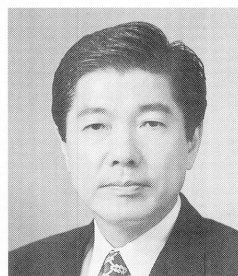
ご協賛・ご協力

[illegible]

上記各位より多大なご協賛の品を頂戴致しました。
東京旭川会より感謝の意を表するとともに厚くお礼申し
上げます。誠に有難うございました。

伊 塚 清、岩村久子、飯田昭宣、伊集院實、坂井一瓏、井上惠三、池田弘子、石原典慧、石田清一、石野博子、植木宏昌、氏家一衛、梅原音二、浦木康介、海老澤美智子、大江誠、大畑浩一、大玉勝政、大城栄子、大居正和、小川礼子、尾崎靖亮、大屋道夫、大野武夫、大野八代子、大木恭子、折登昭三、大内秀夫、奥山加代子、加藤辰雄、加藤桂子、笠原貞夫、河村尚之、神部泰、海原卓、金田英行、片山重毅、川口曉夫、亀井欽一、喜多美佐子、菊田和夫、窪田敬昭、桑本平八、黑崎弘、栗原寿美子、小柳武二、鴻上修一、小松仁志、近藤耀子、後藤直容、佐々木秀典、桜岡勝征、佐々木憲一、佐々木京子、佐渡賢一、斎藤弘明、坂井弘子、島田寛、島田実、島田瑞子、直原綾子、須藤智恵子、鈴木毅、鈴木吉之、杉山恵子、鈴木日出男、鈴木孝、園田隆一、	田中三郎、高宮行男、高木利武、武田陽子、高野哲男、高橋文子、高橋英治、竹原茂雄、田中幹夫、田村昌士、高橋照美、高橋正夫、武内英三、平トシエ、田中国夫、高橋浩子、土井屋初代、寺田英子、出嶋慶司、土井磨智子、中島スミ子、中塚晃介、中村泰敏、並木治子、中村園子、新園江、西木戸孝夫、西谷内力世、西村明、西田育子、野作雅章、花輪元治、花輪音三、橋本博治、橋本裕子、原公朗、林秀一、坂東幸子、坂東勝利、坂東宗光、原田寛、廣瀬兵一、平岡美恵子、引地康博、藤井章司、福原博子、古畠誠一、堀江秀明、本間敏弘、本田真知子、松原利治、南榮一、枡澤均、松本哲一、松島蔦、松島貞夫、松山美紀子、松山信子、三宅一郎、松田勇三、八木祐四郎、安井規雄、山脇兼治、山本正純、山口康成、山本省吾、吉崎与一、吉田洋一、横山秀夫、吉田友之
--	--

東京旭川会／会員の皆様へ



旭川市長
菅原 功一

皆様には、日ごろから郷土旭川の発展のために格別のご支援・ご協力を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。

さきの総会及び懇親会には、諸般の事情により出席できずに残念に思っておりますが、盛大に、しかも和気あいあいのうちに交流が深められたと伺いました。八木会長を中心とした役員並びに会員の皆様の結束の強さに改めて敬意を表します。

私は首都圏のこうした素晴らしい「ふるさと会」と強い絆で結ばれておりますことを、誇りに思うと同時に大変うれしく思っております。

さて、私は市長に就任して以来、豊かな自然と様々な都市機能が調和した素晴らしい街・旭川をより発展させるために、市民と共に手を携え、うるおいや心の豊かさを実感できる、質の高い街づくりに全力を尽くしてまいりました。一歩ずつではあります、着実にその成果をあげることができたものと思っております。

このたびの市長選挙でも、そうした成果に対して多くの市民の方々からご信任をいただき、再び旭川の市政運営を任されたものと確信してい

るところであります。

今年十月に完了しました旭川空港の拡張整備事業をはじめ、旭川市は北海道の拠点都市にふさわしい街づくりを進めております。この後も、産業経済の活性化はもちろん、北彩都あさひかわ(駅周辺開発)の事業や、平成十二年四月の中核市移行など、これからの旭川市にとって非常に重要な事業や課題が数多く控えております。

私は、二期目の市政運営にあたり、これまでと同様に「市政は市民が創る」という基本姿勢を貫き、まちづくりの主役である市民と一体となり、地域の主体的な発想のもとに知恵と情熱を傾け、この旭川を内外に誇りうる街にしていくなために全力を尽くす覚悟でおります。

今、旭川の街並みは、雪に映えるナナカマドの実が一層鮮やかさを増し、夜の街路をイルミネーションが幻想的に北国の冬を演出しております。また、この冬は、四十回目となる冬まつりや国際バーサススキー大会に加えて、スノーボードのワールドカップ旭川大会が開催されるとあって、国内外に旭川の名を高める大きなイベントの成功に向けて、市民ぐるみの熱い取り組みが進められています。

春には「ふるさと訪問の旅」が企画されると伺っており、今から皆様との再会を心待ちにしております。八木会長をはじめ会員の皆様には、ふるさと旭川の力強い発展のために今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

東京旭川会—平成9年度事業報告

(平成9.9.1~10.8.31)

(1) 第21回総会／懇親会

平成9年10月31日

京王プラザホテル 出席者 125名
来賓・随員 27名 合計 152名

(2) 会報「ななかまど」第18・19合併号発行 (H10.1.22)

(3) 北海道ふるさと会連合会行事参加

東京旭川会—平成10年度事業計画(案)

(平成10.9.1~11.8.31)

(1) 第22回総会／懇親会

(2) 第12回「郷土訪問の旅」

(3) 親睦ゴルフコンペ

(4) 会報『ななかまど』発行

(5) 北海道ふるさと会連合会行事参加

東京旭川会—平成9年度決算

(平成9.9.1~10.8.31)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
繰入金	600,686	懇親会費	1,660,320
年会費	676,000	印刷費	791,112
懇親会費	1,250,000	通信費	199,680
名簿売上代	17,000	通会議費	106,181
寄付金	210,000	交際費	55,000
雑収入	9,451	事務費	64,066
借入金	700,000	手数料	14,345
		雑費	0
		支出計	2,890,704
		繰越金	572,433
合計	3,463,137	合計	3,463,137

東京旭川会—平成10年度予算(案)

(平成10.9.1~11.8.31)

科目	平成9年度決算	平成10年度予算	摘要
☆収入の部			
繰入金	600,686	572,433	100名 出席190名
年会費	676,000	800,000	
親睦会費	1,250,000	1,900,000	
名簿売上代	17,000	0	
寄付金	210,000	200,000	
雑収入	9,451	2,000	
借入金	700,000	0	
収入計	3,463,137	3,474,433	
☆支出の部			
懇親会費	1,660,320	1,900,000	
印刷費	791,112	500,000	
通信費	199,680	150,000	
通会議費	106,181	50,000	
交際費	55,000	50,000	
事務費	64,066	10,000	
手数料	14,345	15,000	
金費	0	700,000	
雑費	0	5,000	
支出計	2,890,704	3,380,000	
繰越	572,433	94,433	
合計	3,463,137	3,474,433	

参加者募集!!

「郷土訪問の旅」

十月十六日の第22回総会で平成10年度事業計画の一つとして可決された「第12回郷土訪問の旅」について、親睦委員会では次の通り大綱を決定し、航空会社等関係先と具体的な調整に入りました。年明け早々にも開催についてのご連絡を会員各位に通知すべく準備しております。

期日 九十九年六月四日から二泊三日と三泊四日の二コース。往路は旭川直行、復路は旭川発と札幌発

その他 七〇名
社祭(旧招魂祭で音楽大行進が行われる)
従来の道内旅行は今回取り止め

追悼のことは 矢野さんを偲んで

南 榮二

矢野さんの訃報を聞いたとき、あ矢張りいけなかったのかと思った。数年前から糖尿病を患っていることは聞いていた。その頃から会議後の懇談の時にウーロン茶を注文するなどアルコールは随分控えておられた。然し好きなゴルフは熱心に続けておられた。

昨年十月三十一日の第二十一回旭川会総会にお見えになり、いつものように微笑みを浮かべながら手を差しのべて握手をしたが、あのふくよかなお顔でなく余りにもやせられた姿に愕然とした。それでも市長始め来賓の方々に挨拶され、総会の進行中は椅子に掛けおられたが、懇親会が始まってからお帰りになられたよう、ふと見ると席に姿は見えなかった。思えば矢野さんの姿に接したのはこれが最期となった。



編集部から追悼のことは依頼されて送方に暮れたのは、矢野さんを存じ上げたのは昭和五十五年頃から東京旭川会、旭商同窓会を通じてであり、個人的なことは余り深く聞いたことがなかった。事業の後継者となられた子息の正隆氏にお話を伺い、資料をお借りしてその足跡をたどってみる。

東京で生れ旭川で育ったのは父・虎泉氏(弁護士)の早世に伴い、母の故郷旭川に引揚げた六歳の頃。母が学校の教師として働きながら養育し、永山小学校から旭川商業を卒業するまで旭川で過ごしている。

『住んでいたのは永山農業の校庭の続きで朝な夕なに遙かに大雪山の秀嶺を仰ぎ少年期から青年期にかけて育ち来てました。永山の我が家から大雪の嶺々をあかす眺めていると四季折々、時々刻々と移り変わる様は素晴らしいの一語に尽き、いまも故郷へ訪れる度に大雪山に接し「あ、帰って来たんだなあ」という実感が雲のようにわきます』

と百年記念式典に参加しての感想を述べておられる。(「ななかまど」十三号)

その後、小樽高等商業(現小樽商大)を卒業し、当時の青年が競うように夢を描いて就職した大陸の華北交通株式会社に勤務したのも四年余り、敗戦のため帰国し、生活の糧を得るため雑貨類の販売を始め、後に清記商会(現セーキ)として創立、生活物資の卸業並びにレストラン自営をした。

さらに昭和二十八年、日東化学工場に社員食堂を開設、食堂業に進出、昭和三十五年「車社会」の到来を予測してタクシー事業を志し、昭和自動車(株)を設立した。乗用旅客自動車協会城西支部長などの要職をつとめ業界の取組め、近代化に努力されて運輸大臣表彰を授けられる等の功績がある。

また、最も氏の名を高めたのは東京の商業中心地・銀座四丁目三キモトビルにフランス料理店「銀座レカン」を昭和四十九年六月に開設したことである。当時三キモトビルには小樽高商同期のS氏が居られ、その縁で開設することになり、その後、の事業発展、繁栄につながって来た。フランス菓子店、料理店として都内の松屋、二越、高島屋等有名デパート十数カ所に進出しているが、銀座三丁目大倉別館のフランス菓子店「パチスリールレカン」は、花嫁衣裳を準備する娘さんが連れの母親と共に「和光」をスタートして和装店、履物店など老舗を巡るコースの最後に一服する店として、その明るいセンスある店のムードが評判になった。

氏は多感な少・青年期を北海道で過ごした故郷旭川に強い愛着を感じておられたように、会の郷土訪問旅行にも多忙な業務の中を殆ど毎回参加され、しばしば国長を努められた。郷里で開催された同期会にも毎回参加しておられた。旭川会、同窓会等の用件で上京した関係者に対しては、私費をもって遇することを忘れることがなかった。また経営する事業の資金繰りに苦慮する後輩には力強い相談相手であった。このように同窓生、郷里の方に對して常に温い細やかな配慮をされた方であった。東京で活躍した旭商同窓生の中で、元副会長の谷武雄氏と共に最も成功した先輩らしい先輩として多くの同窓生から敬慕された方である。

女性役員より速名で追悼の言葉が寄せられていたため、その一部をお借りして結びとする。

「早いもので七くなられてからもう半年を経過しました。先日(の)第二十二回旭川会総会の席には、矢野さんのダンディな姿が見られなかったのが淋しい限りです。長い間ご指導頂いた方だけに思い出がいっぱいです。人望厚く決断力があり年代を問わず人望のとお気遣い下さいました。会議のあとにはお迎えの車の時間迄はいつも和やかに皆さんの車を待つ、若い方々の行く所にも喜んでご一緒して頂き、多勢でご馳走になっておりました。

地上では大切な方を失いましたが、天上では平岡会長、谷副会長共々旭川会の行末を案じて下さることでしょう。御冥福心よりお祈り申し上げます」

21世紀をめざして「北彩都あさひかわ」

きたさいと

都心部のルネッサンスと注目される「北彩都あさひかわ」の事業は、今年から本格的に着工した。

事業区域は、86ヘクタールと旭川らしく広大な空間を有している。地域の北側には、昭和四十七年に日本初の恒久的な歩行者天国としてオープンした「平和通買物公園」を中心とした現在の都心部が展開し、旭川駅から北側に向かって発展してきた。地域の南側には大雪山連峰を源とする忠別川が流れ、さらにその南には、博物館や音楽堂のある大雪クリスタルホールや大雪アリーナなどの大きな施設が並び、カルチャーゾーンと見本林のある神楽岡地区がある。

このようなロケーションの中、鉄道と忠別川の存在が街の発展を分断するという、地域の長年の懸案を解消するための計画づくりが進められてきた。そしていよいよ今年、忠別川に橋を架け都心機能を一体的に整備していくための、鉄道高架事業や土地区画整理事業などの主要な基盤整備事業に着工することができた。

この計画の大きな目標は、中心市街地の復興を目指す「都市ルネッサンス」である。自然に恵まれた旭川を象徴する水と緑が豊かな都心のオアシスを創り、旭川市民はもとより周辺地域に住む人々の共有の財産であり、生活の場でもある旭川の都心部を楽しく活力あるものにしようとするものである。

また、国鉄時代に利用されていた歴史的なレンガ造建築物や風防林などの貴重な財産を活かしながら、隣接する神楽岡公園の大きな森とともに、豊かな自然環境の中に新しい都市空間が形成されていく。

こうした旭川市の、21世紀に向けた都市と自然が共存する魅力あふれる街づくりの取り組みは、中心市街地の機能低下を課題とする全国の地方都市に対して、街づくりのあり方を提案する良き事例として注目されている。



旭川駅の裏を流れる忠別川は、これ

旭川観光大使名簿

(敬称略・順不同)

氏 名	職業・役職	旭川市との関わり
池 城 康 朗	北海道新聞社事業局局長	元旭川支社長
池 永 孝 三	都城ときめき大学運営委員長	旭川応援者
生 駒 興 三	㈱ジェイトラベル大阪取締役	元㈱日本エアシステム旭川支店勤務
石 塚 征 雄	NHK編成局施設運用チーフディレクター	元NHK旭川放送局勤務
伊 藤 建 介	実業之日本社ブルーガイド出版部編集長	旭川応援者
伊 東 ゆかり	歌手	カムイ竹村会
井 上 知 一	馬車道商工会理事長	旭川応援者
猪 瀬 英 雄	㈱エーエヌエーケータリング 取締役	元全日空旭川営業支店支店長
伊 吹 吾 郎	俳優	旭川応援者
岩 田 公 雄	読売テレビ報道部東京駐在ニュース解説委員	旭川出身
岩 村 和 俊	㈱白石 監査役	岩村通俊初代道庁長官の孫
宇田津 一郎	元宮崎県立宮崎西高等学校長	旭川応援者、スキー修学旅行
遠 藤 哲 夫	㈱東芝 広報部長	旭川応援者
大 竹 龍 雄	全日空一般乗務員組合連合会(日産労連)副会長	旭川応援者、日産労連スキーツアー
岡 井 元 人	放送大学学園理事	旭川出身
小 澤 康 子	千歳全日空ホテル総支配人	元全日空旭川営業支店支店長
折 坂 章 子	NHKお天気キャスター、㈱日本気象協会	旭川出身
海 原 卓 美	作家、TVドラマ脚本家	旭川出身
片 桐 麻 美	シンガー・ソングライター	旭川出身
金 平 茂 紀	TBS報道局 兼業者也ニュース23担当デスク	旭川出身
川 窪 正 昭	㈱デジタルSKIPステーション代表取締役専務	元NHK旭川放送局勤務
川 島 伸 達	桐朋学園教授	旭川出身
川 島 雅 達	NHK日本議事センターチーフアナウンサー	元NHK旭川放送局 アナウンサー
河 内 達 雄	㈱阪神百貨店販売促進部長	旭川応援者
川 藤 幸 三	川藤プロジェクト、プロ野球解説者	旭川応援者
北の富士 勝 昭	元・横綱北の富士、相撲評論家	旭川出身
木 野 工 人	作家、元・北海タイムス社	旭川出身
日 下 公 人	ソフト化経済センター理事長、多摩大学教授	カムイ竹村会
久 里 洋 二	キャンデルクラフト協会会長、イラストレーター	旭川応援者
小 林 光 一	棋士、元囲碁名人	旭川出身
小 松 左 京	作家	旭川応援者
五郎部 俊 朗	声楽家、オペラ歌手	旭川出身
笹 戸 千 津 子	彫刻家	中原悌二郎賞受賞者
佐 藤 オリエ	女優	旭川応援者
佐 藤 安 弘	ジャーナリスト	旭川出身
佐 藤 美 子	ジェイエイエス商事㈱ 常務取締役	旭川応援者
島 影 裕 司	関西旭川会理事、㈱ふじや会長	旭川出身
島 津 良 昭	関西旭川会理事、テレビ大阪	旭川出身
菅 井 尚 伸	テレビ朝日㈱	旭川応援者

氏 名	職業・役職	旭川市との関わり
杉 田 二 郎	歌手	旭川応援者
鈴木 貴 久	プロ野球選手	旭川出身
鈴木 日出男	世紀東急工業㈱ 監査役	旭川出身
瀬 田 龍 彦	元・サッカー選手	旭川応援者
千 田 利 史	㈱電通テレビ局企画推進部長	旭川出身
高 木 利 武	㈱東芝情報通信・制御システム事業本部副事業部長	旭川応援者
高 橋 巖 蔵	㈱十勝 代表取締役	旭川出身
高 宮 行 男	学校法人代々木ゼミナール 理事長	旭川応援者
武 内 英 三	中小企業金融公庫本店考査部長	元中小企業金融公庫旭川支店長
竹 村 健 一	評論家	カムイ竹村会主宰
多 田 昭 重	西日本新聞社常務取締役・編集局長	旭川応援者
玉 置 浩 二	歌手	旭川出身
豊 澤 敬 一郎	関西旭川会会長	旭川出身
永 井 扶 夫	北海道新聞社事業局企画開発部次長	元北海道新聞旭川支店勤務
中 村 泰 敏	CMディレクター	旭川出身
永 山 武 臣	松竹㈱代表取締役会長	永山武四郎2代道庁長官の孫
野 村 玲 子	女優(劇団四季)	旭川出身
原 一 平	タレント	旭川東高出身
藤 田 和 日 郎	漫画家	旭川出身
古 川 昭 一	㈱ジェイトラベル 東京常務取締役	元日本エアシステム旭川支店長
ポール・牧 子	喜劇役者	旭川応援者
星 野 伸 之	プロ野球選手	旭川出身
堀 紘 一	㈱ボストンコンサルティンググループ 代表取締役社長	カムイ竹村会
本 坊 輝 雄	日本砂像連盟顧問	旭川応援者
本 間 正 俊	㈱東芝官公システム事業部長	旭川応援者
三 澤 千 代 治	ミサワホーム㈱社長	旭川でホテル経営
水 田 竜 子	歌手	旭川出身
水 奈 月 順 子	歌手	旭川応援者
八 木 祐 四 郎	東京旭川会会長	旧制旭川中学出身(現・旭川東高)
柳 ジュン	歌手	旭川応援者
柳 沢 紀 夫	元・㈱文化放送 放送事業本部・報道部勤務	旭川東高出身
山 崎 勝 彬	㈱ジェイトラベル北海道 社長	元日本エアシステム旭川支店長
山 本 正 和	大蔵省大臣官房厚生管理官	元旭川財務事務所長
横 島 憲 夫	㈱トモス代表取締役	旭川応援者
吉 岡 征 雄	最高検察庁検事	元旭川地方検察庁検事正
吉 田 洋 一	藤田観光㈱営業推進部部長	旭川応援者
吉 田 義 勝	明治乳業㈱取締役乳品医薬品本部長	旭川出身
渡 部 せ づ	デザイナー	旭川出身

「旭川には平成二年の藤田観光ワシントンホテル旭川のオープン時から社長兼支配人として二年半おりました。旭川の観光は初夏から秋と真冬は魅力がいっぱいですが、雪の降り始めと雪融け時期が難しい。この時期に何か魅力的な企画があるといいですね」



藤田観光営業推進部部長 吉田洋一氏



作家・脚本家 海原卓氏

「北高の前身・市立中学を昭和二十年に卒業しました。ポール・牧さんが演じたひとりの芝居『死刑囚・島秋生の生涯』の作・演出というご縁で観光大使になったと思います。十月十一日から二十五日まで旭川市中央図書館で『島秋人展』をやっていますので最近よく帰ります」

「二年間公庫の旭川支店長をしていた時に、旭川にも鹿兒島の『さつま大使』制度をとり入れてはどうかと薦めたことがありました。旭川は『自然とともに人間が生活する都市』と思います。人口三十六万人規模で、こんなに自然と調和している都市は他にありません」



中小企業金融公庫考査部長 竹内英三氏



代々木ゼミナール理事長 高宮行男氏

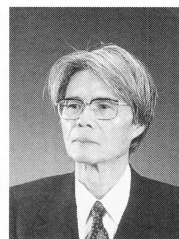
「滝川出身ですが、若い時第七師団司令部の参謀部にいました。以前、井上靖先生と日経紙上で対談したのが目に止まり、観光大使に推薦されたようです。勇ましい熱気あふれる旭川で一番目のきれいな時代を過ごさせてもらったことを懐かしく思い出します」

懇親会出席の観光大使は語る

三浦綾子記念文学館

旭川・神楽見本林に
オープン

館長 高野斗志美



一九九八(平成十)年の六月十三日、旭川の神楽見本林に、三浦綾子記念文学館がオープンしました。

「三浦綾子さんの文学館をつくらう」という声は、ずいぶん前から、市民のあいだに広くひろがっていました。一九九五(平成七)年になって、その願いが具体化され、十二月六日、設立実行委員会の総会が開かれました。市民運動の成果です。これは大きな反響を全国に呼びおこし、各方面からの共鳴と支持を得ました。旭川市と北海道からの助成がありました。一万五千人におよぶ全国からの実行委員会への参加は大きな力でした。そして、ほぼ二年半をついやして開館にこぎつけることができました。

文学館のメイン・テーマは、三浦文学の本質に照らしあわせ、へひかりと愛といのち」に決めました。建物もそれをイメージして作られています。また、内部の展示もそのテーマをもとに、次のようになっています。

第一展示室——「三浦文学のすべて」

第二展示室——「作家への道のり」

第三展示室——「氷点」の世界」

第四展示室——「ゆたかな作品群」

第五展示室——「共に歩んで」

神楽の外国樹種見本林は、林野庁旭川営林支局の管理するところですが、こゝとして植林百年をむかえまして、三浦綾子さんのデビュー作であり代表作である『氷点』の舞台となっている場所です。国有林で、景観のすぐれた、『氷点』ゆかりのこの地に文学館は建っています。林野庁がこゝろよく敷地を提供してくれました。心が安らぎ、いやされる見本林



神楽見本林内に建てられた記念文学館全景

のなかに建てられていることが、この文学館の魅力のひとつであるでしょう。

雪の結晶をイメージの原型において設計された変形十二角形の文学館は、見本林の景観とよくマッチしています。純粋で清楚な形姿が印象的です。それとともに、内部は、お年よりやお体の不自由な方々に便利なように、できるだけ配慮した作りを心がけました。ここを訪れる方々の心



〒070-8007 旭川市神楽見本林
TEL 0166-69-2626

JR旭川駅から車で10分、
都心部よりバスで10分、
神楽農協前下車、徒歩5分

これからは、旭川の新しい文化の発信拠点として、全国の人々に親しまれ、支えられていくユニークな文学館をめざしていきます。

運営には財団法人三浦綾子記念文化財団があたっています。民立民営の文学館です。これは全国の文学館でも珍らしく、注目されています。九月には博物館の資格も得て登録されました。

開館いらい五カ月になろうとしています。とぎれなく来館者がつづき、十月末現在で、入館者は全国各地にわたり、総数五万九千名におよびます。初年度(予算)入館予定者数は三万名ですから、はるかにそれを上まわる盛況ぶりです。旭川の新名所となりつつあるといつてよいでしょう。

—冬の競技は今、 夏と肩を並べた—

日本代表選手団長 八木祐四郎



冬季オリンピック史上最多の七十七カ国・地域から選手二千三百二名、役員千四百六十四名、選手団総数三千七百六十六名が参加した長野オリンピックは、一九九八年二月二十二日、その十六日間数々の感動と想い出を残してその幕を閉じました。

日本選手団は、選手百六十六名、役員百四十七名の合計三百十三名で選手団を編成し、一月二十七日に秋篠宮殿下ご臨席のもと結団式を執り行い、大会に臨みました。

今大会は一九七二年の札幌オリンピック冬季競技大会以来、二十六年ぶりの国内開催でもあり、ホスト国として七競技すべてにエントリーして、六十八種目中六十五種目に参加し、札幌大会を上回る成績を目標としました。

ご承知の通り、大会四日目にスピードスケート男子五〇〇メートルで日本選手団の旗手である清水宏保選手が見事な滑りを見せて、日本選手団第一号、スケート史上初の金メダルを獲得したのを皮切りに、スキーフリースタイル女子モーグルの里谷多英選手、スキージャンプブラジヒルの船木和喜選手、同じくジャンプ団体、そして大会終盤にはスピードスケートのショートトラックで若い

十九歳の西谷岳文選手が活躍し、日本の冬季オリンピック史上最多の金メダルを獲得することができました。そのほか銀メダル一、銅メダル四とメダル総数十個は、各国のオリンピック委員会別では、七番目の成績です。四位から八位の入賞は二十三で、メダルを含めた入賞数三十三と、

いずれもこれまでの大会を上回り、史上最多となる成績を残すことができました。この中にはバイアスロンの女子十五キロメートルで高橋涼子選手が六位、クロスカントリー男子リレーが七位となり、初入賞を果たした競技種目も含まれています。この長野オリンピックの開催によって、史上最高の成果を国民の皆様を示すことができ、どうやら冬の種目も、夏と肩を並べることができたのではないかと思います。

これらは、ひとえに準備の段階からご協力いただいた長野組織委員会、また、大会中のボランティアの方々、の献身的な支え、国民の皆様のたくさんの方々の応援があったからこそと思っています。あらためてお礼を申し上げる次第です。

今回のオリンピックでは、経済的にも、社会的な面でも、暗い話題しかなかった日本に、スポーツ界から明るい話題を提供したいと思っておりました。

スピードスケート男子五〇〇メートルで身長百六十一センチの小さな体を駆使して優勝した清水選手が、父親が亡くなってから自分を一人で育ててくれたお母さんの胸に金メダルをかけてあげたこと。女子モーグルの里谷選手は、前年に亡くなったコーチだったお父さんの写真を胸に

しての金メダル。また、ジャンプの原田雅彦選手は、リレハンメル大会の団体の失敗によって四年間苦闘にあえぎながら、最後の最後に劇的なドラマを演じてくれました。

こうしたシーンを見た子供たちに、彼らが与えた影響というのは計り知れないほど大きな役割を果たしてくれたものと思います。

今後の強化策については、まだまだ抜本的な改善が必要です。もちろん全体的なレベルアップも必要で、トップ選手の養成も、より積極的に進めていきたいと考えています。

また、日本人に適した有望競技種目に重点的に取り組みたいとも考えています。

選手強化に必要な施設面でも、文部省が既に国立スポーツ科学センターを着工しており、次はナショナル・トレーニングセンター建設のお願いをしています。新しくできる横浜の医科学センター、そしてナショナル・トレーニングセンター等の施設との間のリレーションをうまくとりながら、選手の強化に当たっていききたいと考えています。

医科学の専門家にも積極的にプロジェクトに加わっていただき、強化を進めていくべきだという点で古橋会長とも意見が一致しており、新しいプロジェクトを作って進めていきたいと考えています。

また、今回のオリンピック施設の



オリンピック選手団の行進。中央に八木会長が見える。

あと利用についての問題があります。施設は多目的に作られてはいますが、地元で運営するのはなかなか大変です。国という立場で関与していくことが必要ではないかと思っています。選手強化や、大会の運営資金など総体的な問題については、企業に頼っているのが現状です。国の支援にも限界があるので、財政的にJOC自身による財源の確保が必要です。JOCの中に財政確保の特別プロジェクトを作り、これからの財政問題を現在いろいろと検討しているところ

です。今回の長野オリンピックでは、JOCの持っている力、あるいは各競技団体の持っている力を何とか示すことができたのではないかと考えています。

これから次のオリンピックに向けて新しい態勢を作り、みんなで力を合わせて、あらゆる課題を精査しながら、真剣に取り組んでいきたいと心から願っている次第です。

我々の為にご支援いただいた旭川市民と東京旭川会の皆様に重ねてお礼を申し上げます。

本場にありがとうございます。

(八木会長は、東京美装業代表取締役会長のほか、全国ビルメンテナンス協会会長、JOC専務理事、全日本スキー連盟副会長兼専務理事など要職多数)

ピース・アベニュー〈後編〉

久々な北の散人

久々も久々、二十余年ぶりでわが生まれ故郷、旭川を訪れた。宿舎は妹宅と市中のホテルへ。日刊紙や週刊誌の記者をやって日本中の都市を見なれた目には、とりわけ特色のある町に変化したとも思われなかった。しかし、おりからの初夏、色とりどりの草花が咲いてすがすがしい。与謝野晶子の秀作が口をついた。

人の云ふ北海道の大野なる

雪のけしきす海峡の霧

初夏の正午のあやめもやさむき
北石狩の旭川かな

流星が滝の身となる石狩の
層雲峡のうら寒きかな

でも、いくつかの気になることがあった。市内の一三丁目にある近藤染物店が、北海道の文化財に指定され札幌へ移転することになった由、改めて見にいこうと思ったが、どうして旭川市そのものの文化財になかったのかと考えると納得出来なかった。由緒ある近藤染物店は見ずじまい。

なにも旭川市に北海道明治村をとはいわれないが、旭川というのは歴史をかえりみない非情の都市ではないのかと考へた。

第一に旭川市で最古の中央小学校は、はじめ日新、大成などの小学校の名

は消えてしまった。とくに最古の中央校の名が消えたことは、散人の出身校だけに無念である。

続いて、第七師団跡に残る旧偕行社を訪れてみた。たしかに白亜の建物はそっくり残ったものの、中身は歴史とはかけ離れた彫刻作品……。軍都にサヨナラして買物都市に変身するまで、陸軍士官学校出の将校たちがクラブとして使っていた偕行社である。

軍隊が好きとか嫌いでなく、旭川市の歴史として消すことの出来ない第七師団の存在である。歩兵第二十六、二十七、二十八の三個聯隊(固有名詞なので聯であり、連は不可)を軸に明治三十三年(一九〇〇年)に兵営を建設し、これが昭和二十年(一九四五年)まで続いた。

政治、経済、文化、社会と、旭川そのものが好むと好まざるにかかわらず、軍の力をバネに伸びてきた。昭和十八年二月、ガダルカナル島で郷土部隊の歩兵第二十八聯隊と工兵第七聯隊の一部が全滅したおり、悲報を知って旭川市そのものが慟哭して悲しみの底に沈んだ。勝てば勝ったの旗行列であつたのに――。

常備軍の駐屯でもたらす経済的波及効果は大きかった。いいかえると、軍隊がいなければ今日の旭川はなかったといつていい。お断りしておくが、散人は軍国主義を礼讃するものではなく、歴史の無視は明

らかに文化の無視につながるのを恐れるのだ。

日本人の海外移民の取材調査でしばしば南米、北米各地に出向く散人は各都市で「デビジョン・ストリート」なる地名に出会うことが再三ある。

しかし大アメリカのこと、朝鮮戦争でおかしくなっても、ベトナムで敗けても「師団通り」の「デビジョン・ストリート」がいつの間にか「ショッピング・パーク・ストリート」や「ピース・アベニュー」に改称したなどという話はついぞ聞かない。

旭川にあるあの白亜の偕行社など近藤染物店同様にノシをつけて札幌に進呈したらいかげんなものか。たしかに軍隊とかかわりのない彫刻作品で埋めるのも一つの在り方だろうが、偕行社の名をとどめる以上、第七師団関係の歴史展示はここに留めるべきであらう。

たしか旭川地方の北鎮部隊の中軸歩兵第二十八聯隊の第二聯隊長、村上正路大佐(山口県)は日露戦争における奉天の会戦で負傷してロシア軍の捕虜となった。大佐の捕虜第一号である。村上大佐はのちに日本軍の捕虜二千人を引率して東京に戻ってきたが、時の明治政府からは全くのおとがめなし。

捕虜を許さず処刑扱いした対ソ連戦のノモンハン事件以後と比べると、何と違うことか。もともと今日の学校教育でも歴史、とくに近現代史についてはほとんどふれないという。歴史の正確な継承のため、われわれは何をすべきなのか。

(北の散人は旭川出身のノンフィクション作家。本名、伊藤一男氏。菊池寛賞を受賞、著書多数)

旭川だより

雪・氷・あかりの祭典「旭川冬まつり」と「スノーボードワールドカップ」が同時開催

今回で40回目となる「旭川冬まつり」は、2月6日から14日まで開催される。メイン会場となる石狩川旭橋河畔の大雪像は、ギネスブックに世界最大級として記録されており、今回の旭川迎賓館(幻の上川離宮)も圧倒されるであろう。



40回目を迎える「旭川冬まつり」

会場では、高さが10メートルを越える大水像の他、国内外から一流の水彫刻家が集い、氷彫刻世界大会が開催される。

夜には、雪像・氷像が色とりどりにライトアップされ、樹木を使ったあかりのオブジェと一体となって、すてきなファンタジーの世界へと誘う。『FISワールドカップスノーボード旭川大会』は、2月12日から14日まで、サンタプレゼントパークマロースグレンデ(前サンバレースキー場)で開催される。

種目は、男女のバラレルスラロームとハーフパイプ(雪面を半円状に掘り下げた特設コースで技を競う)の2種目で、20カ国から選手、役員、約200名が参加し熱い戦いが繰り広げられる。



20カ国が参加「FISワールドカップスノーボード旭川大会」

「旭川市名誉市民」に五十嵐広三氏 坂東 徹氏選ばれる

「旭川市名誉市民」の称号は、永年にわたり広く社会の進展と文化の興隆に寄与され、郷土・旭川の発展に尽くされた方に贈られるもの。

五十嵐広三氏は、昭和38年から昭和49年まで3期11年余市長を務められ、昭和55年から平成8年までは5期16年余にわたり、衆議院議員として国政に寄与された。

市長在任中には、アイデアと獨創性に満ちた街づくりとして全国的に誇れる平和通買物公園をオープンさせた。衆議院時代には、建設大臣や内閣官房長官として国政の中枢に参画し、我が国の発展に多大なる功績を残された。

坂東徹氏は、昭和34年から昭和50年まで旭川市議会議員を、昭和53年から平成6年までの4期16年は旭川市長を務められた。

市長在任中は、北海道縦貫自動車道の建設促進や空港のジェット化をはじめ、道路・上下水道等の都市基盤整備を進め、スタルヒン球場や、住民センター等の開設など住民福祉の向上に大きく貢献された。

さらに、21世紀を見据えた駅周辺開発を推進するなどその功績は、顕著となっている。

旭川冬の風物詩 街を彩るイルミネーション

旭川の夜は、白い冬を艶やかに飾るイルミネーションで、人も街もほんのり色づく。

旭川の中心的な通りの「昭和通り」「平和通買物公園」「緑橋通り」の、各イルミネーションは、「フレンドリー」「ウェルカム」「ナナカマド」と呼ばれている。

昭和通りは、繁華街(さんろく)の夜を華麗に彩る2本のシンボルツ

リーがそびえ立っており、多くの人が出逢い、にぎわうゾーンになるようにとの願いから、2本のツリーは、「ツインピラー3.6オリヒコ物語」と名づけられた。

街灯と一体となって、柔らかな灯りを見せてくれる手作りガラスの造形イルミネーションが、70基ほど設置され、街のぬくもりを感じさせて

旭川市経済大使のご紹介

旭川市では、平成9年度に「旭川市経済大使制度」を創設した。

経済大使の役割は、旭川圏域の地域特性や都市環境等の資源と魅力を広く企業等に周知すると共に、企業等の立地動向の情報を提供していたなど、旭川への企業誘致を助け願うものである。

経済大使は、旭川の出身者または旭川にゆかりのある方で、経済界やマスコミ等の第一線で活躍し、幅広い人脈や情報を持った方をお願いしている。

現在の経済大使は次の方々で、平成10年の3月に菅原市長から委嘱状が交付された。(敬称略)

〈関東圏域・東京〉

嶋村 輝郎(株)ニコン常務取締役 旭川西高校卒業。平成10年10月東京旭川会入会

〈中部圏域・名古屋〉

西村 敏雄(読売新聞中部本社編集局経済部長 旭川西高校卒業)

〈関西圏域・大阪〉

塚田 久夫(東大阪商工会議所会頭 旭川工業高校卒業)

くれる。

買物公園と緑橋通りでは、約20本の樹木に電球をめぐらせ、12月1日から点灯している。

特にナナカマドの赤い実をデザインしたイルミネーションは、幻想的な輝きで、安らぎの空間を演出。旭川の冬の風物詩として、市民はもとより観光客にも親しまれている。

〈東北・信越圏域・新潟〉

石川 雅郎(中小企業金融公庫新潟支店長 前旭川支店長)

関東圏域・東京の経済大使 嶋村輝郎さんのプロフィール



昭和16年旭川市生まれ。日章小学校、聖園中学校、旭川西高等学校を経て、東北大学を卒業。株式会社ニコンに入社、現在常務取締役。

嶋村さんは

「旭川の冬は厳しいけれども、外国の先進企業の多くが高緯度の地域に立地しており、冬の影響は全くありません。むしろそれを逆手にとって、気候風土が似ていて環境が余り違うない外国企業を誘致することも考えてみるべきでしょう。」

旭川のように、これだけ企業誘致

に適したまちは、日本でもそう多くないと思います。私も経済大使の立場として積極的に旭川をPRすると共に、工場立地の動きなどをキャッチして、情報を提供していきたいと考えております」

旭川は昭和63年から造成・分譲中の旭川工業団地(約100ヘクタール)や頭脳立地法に基づいて造成され、平成7年から分譲を開始した旭川リサーチパーク(約17ヘクタール)など優れた企業立地基盤が整備されている。

昨今は経済情勢が厳しく、企業誘致も苦戦を強いられているが、経済大使の皆さんのご活躍によって、企業誘致が推進されるよう期待が高まっている。

(旭川市商工部産業立地課)

編集後記

▽今回から新メンバーで編集しました。十二月三日の最終編集会議には、編集委員全員と旭川市東京事務所全員が集合。年内発行に向け、なんとか形にすることができました。この編集作業を永年にわたり続けてこられた大先輩の伊藤一男氏に、改めて敬意を表します。

旭川市東京事務所スタッフ

所長・山脇兼治、副所長・鈴木毅、主査・那須秀昭

編集委員 海老澤美智子、須藤智恵子、橋本裕子、本田真知子、佐藤新朗、林秀一、安井規雄、引地康博(順不同)